

はじめに

この報告書は、平成11～12年度に、林業試験場が道民の森建設事務所・道民の森管理事務所と連携し、神居尻地区に開設された「森林学習センター」を拠点とした森林教育プログラムの作成への取り組み状況と作成したプログラムの内容について報告するものである。

研究最終年度にあたる平成12年度は、森林学習センター周辺の森林を活用し、学校教育を対象とした野外での活動プログラムの作成に取り組んだ。特に、多様化する学校教育からの要望に応え、児童生徒に達成感を与えられるプログラムづくりのために、教材研究の進め方に重点を置いた内容解説を試みた。

学校教育では2002年度より完全実施される「総合的な学習の時間」に向けての取り組みが進められているところであり、森林教育活動はこのような学校教育からの要望に応じていくことにより、森林・林業の理解とコンセンサス獲得に大きく貢献できるものと考えられる。道民の森を含めた道内道内各地の森林利用施設や森林教育に携わる施設・機関の役割の重要性が今後さらに増加することは想像に難くないところである。

この報告書では、児童生徒の多様な問題意識や現場教師からの要望に応える形で立案したプログラムを掲載したが、各地域での利用には未だ改善の余地が多数残ると思われる。これらの改善により、さらにプログラムが多様化していくことを望みたい。

最後に、この研究を進めるにあたり、道民の森建設事務所、道民の森管理事務所、森林学習センターのスタッフの方々から多大なご協力・ご支援を頂いた。ここに深く、感謝の意を表すものである。